291.36-To4572t2
*00249074 *
29|.36
To4572t

# 東京市史蹟名勝天然紀念物寫真帖

大正十二年六月
東京市役所蔵書

一級

291.36 To457ｵ2

# 煙雲西訓

## 厚自相知

彩平題

291.36
To457ｵ2

国立国会
26.10.25
図書館

249074

# 序

肇轂ノ下タル我東京市ハ、四神相應ノ勝地ニシテ、開府以來、歴史ニ富ミ、史蹟名勝及天然紀念物ノ類少カラズ、其一半ハ、今ニ舊觀ヲ存シ、舊形ヲ留ムト雖モ、概ネ市巷街路ノ間ニ點存シ、江戸時代ノ情味ト致趣トヲ忍ハシムル者ノ如キ、市區ノ愈大ヲ致スニ反シテ、甚シク索寞タルノ感ナキ能ハサルヲ憾ム、都市改造ノ業益進ミ、巷衢ノ變易愈大ニシテ、竟ニ全ク低徊俯仰ノ感興ヲ惹カサルニ至ルモ知ル可カラズ、之カ現狀ヲ審カニシ、其眞景ヲ留メ、以テ觀往懷鄕ノ一資ニ充テ、而シテ勝蹟存保ノ精神ヲ闡揚ス、蓋無用ノ事ニ非サラン歟、是レ本帖作製ノ已ヲ得サル所以也、若夫撮影時ニ採擇ヲ失シ、解說或ハ悉詳ヲ闕ク有ラバ、請フ之ヲ佗日ノ修補ニ待タン、予乏ヲ市助役ニ承ケ、勝蹟存保ノ事、亦所管ノ一ニ屬スルヲ以テ、本帖ノ輯成ニ際シ、廼チ一言ヲ卷首ニ冠スルコト爾リ。

大正十一年六月

東京市助役　池田宏

# 目次


一　外櫻田門
二　半藏門
三　和田倉門
四　牛込見附
五　常盤橋門址
六　薩摩藩邸正門
七　黑田藩邸の長屋
八　日枝神社
九　平川天神社
一〇　靖國神社
一一　瀧澤馬琴宅阯の井戸
一二　菊の井
一三　柳の井
一四　櫻が井
一五　五番町の櫻橋
一六　辨慶橋
一七　大手町の並木
一八　神田神社
一九　白木屋の井戸
二〇　西本願寺別院
二一　濱離宮
二二　浴恩園離宮阯
二三　芝離宮
二四　芝大神宮
二五　東照宮
二六　增上寺附三門
二七　德川氏靈屋〔北〕
二八　仝上〔南〕
二九　丸山五重塔
三〇　金地院
三一　青松寺
三二　瑞聖寺
三三　東禪寺
三四　泉岳寺
三五　赤穗義士墓
三六　大久保忠敎墓
三七　大岡忠相墓
三八　杉田玄白墓

三九 萩生徂徠墓
四〇 英一蝶墓
四一 榎本其角墓
四二 品川台場
四三 舊新橋停車場
四四 高輪大木戸阯
四五 丸山古墳
四六 丸山貝塚
四七 愛宕山
四八 芝蒲
四九 増上寺の娑羅双樹
五〇 東照宮の公孫樹
五一 善福寺の公孫樹
五二 佐藤一齊墓
五三 氷川神社
五四 憲法紀念館
五五 大久保利通神道碑
五六 明治神宮外苑のナンジャモンジャの木
五七 玉川上水碑
五八 塙保己一墓
五九 河村瑞賢墓
六〇 山縣大貳墓
六一 林氏地墓
六二 宗參寺
六三 關孝和墓
六四 山鹿素行墓
六五 市谷八幡神社
六六 赤城神社
六七 白山神社
六八 小石川植物園
六九 護國寺
七〇 傳通院
七一 三條實美墓
七二 大塚先儒墓所
七三 尾藤二州墓
七四 古賀精里墓
七五 柴野栗山墓
七六 室鳩巣墓
七七 岡田寒泉墓
七八 木下順庵墓
七九 水野氏墓
八〇 瀧澤馬琴墓
八一 太田南畝墓
八二 屋代弘賢墓
八三 切支丹屋敷阯
八四 光圓寺の公孫樹
八五 後樂園
八六 根津神社
八七 湯島神社
八八 麟祥院
八九 靈雲寺
九〇 吉祥寺
九一 湯島聖堂
九二 向ヶ岡碑
九三 春日局墓
九四 高島秋帆墓
九五 加賀藩邸正門
九六 六義園
九七 御茶の水
九八 西片町の椎樹
九九 東照宮
一〇〇 寛永寺五重塔
一〇一 五條天神社
一〇二 廣德寺
一〇三 寛永寺
一〇四 慈眼堂
一〇五 護國院
一〇六 寛永寺本坊正門
一〇七 天王寺五重塔
一〇八 德川氏靈屋
一〇九 太宰春台墓
一一〇 了翁碑
一一一 北村季吟墓
一一二 蒲生君平墓
一一三 鹽谷宕陰墓
一一四 川路聖謨墓
一一五 秋色櫻
一一六 御行の松
一一七 淺草寺
一一八 淺草寺五重塔
一一九 東本願寺別院
一二〇 報恩寺
一二一 總泉寺
一二二 日輪寺

一二三　淺草神社
一二四　待乳山
一二五　小野蘭山墓
一二六　平賀鳩溪墓
一二七　玉川庄右工門墓
一二八　荷田在滿墓
一二九　石川雅望墓
一三〇　清水濱臣墓
一三一　細井平洲墓
一三二　梅田雲濱墓
一三三　江川英龍墓
一三四　伊能忠敬墓
一三五　谷文晁墓
一三六　迷子報知石標
一三七　姥ヶ池跡
一三八　妙亀塚
一三九　傳法心院
一四〇　西佛板碑
一四一　六地藏石燈籠
一四二　三圍神社
一四三　回向院

---

一四四　法恩寺
一四五　彌勒寺
一四六　弘福寺
一四七　杉山信一庵
一四八　朝川善庵墓
一四九　安積艮齊墓
一五〇　加藤千蔭墓
一五一　磐瀨京傳墓
一五二　隅田堤
一五三　花咲松
一五四　富岡八幡宮
一五五　靈巖寺
一五六　松平定信墓
一五七　村田春海墓
一五八　三井親和墓
一五九　式亭三馬墓
一六〇　津浪警告碑
一六一　西ヶ原一里塚
一六二　飛鳥山
一六三　井ノ頭恩賜公園
一六四　小金井櫻

一　外櫻田門

## 一　外櫻田門

徳川氏入國の頃は此處に扉のない大な木戸門のみがあつて、小田原口、または小田原門といひ、文祿中西丸建築の際改めて内櫻田門に對して外櫻田門と呼ぶことゝなり、寛永十三年の修築で規模が整ふやうになつた。正面に冠木門を開き、此門を入つて升形があり、右に折れて渡櫓の大門があり、女牆、高塀などこれに附隨して居り江戸城見附の形式である。

二　半藏門

三　和田倉門

## 二　半藏門

麴町に通ずる城門で古くは麴町口または麴町門といふたが、此の門の升形の側に服部半藏正就の組屋敷があつたので、半藏門と稱するに至つたのである。寛永十三年江戸城外の惣石垣、見附升形及び惣堀の普請を諸侯に課せし際、此見附は松平長門守秀就の持場で、其築く所である。

## 三　和田倉門

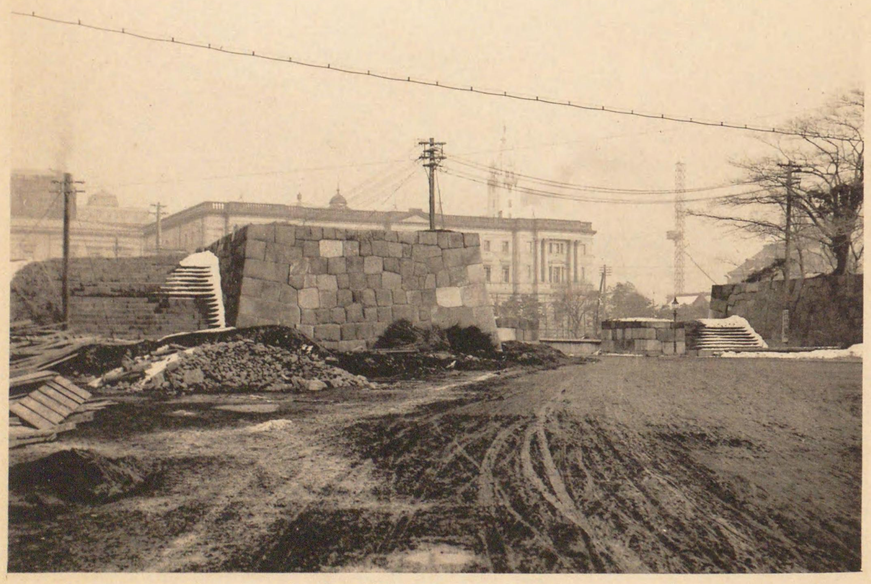
古くは藏の門といひ士分の通行門であつたといふ。こゝに和田藏といふ二棟の倉庫があつたので名くとも、或は太田道灌の家臣和田藏半左衞門の住處であつたので其名が起たともいはれて居る。橋を渡つて正面に冠木門があり、更に桝形を構えて渡櫓の大門あることは外櫻田門と同樣である。

## 三十六歌仙

紀貫之藤原定家は三十六歌仙の中の二人である。貫之は古今集の撰者であり、定家は百人一首の撰者である。百人一首は古今集の中から百人の歌を選んで作ったものである。三十六歌仙は次の人々である。

柿本人麻呂　山部赤人　大伴家持　在原業平　僧正遍昭　文屋康秀　喜撰法師　小野小町　蟬丸　猿丸大夫　中納言朝忠　中納言敦忠　中納言兼輔　中納言行平　中務　凡河内躬恒　壬生忠岑　紀貫之　紀友則　紀淑望　紀利貞　藤原敏行　藤原興風　藤原朝忠　藤原高光　藤原伊尹　藤原兼輔　藤原定家　藤原公任　藤原清正　藤原朝光　藤原元真　藤原実方　藤原道信　藤原高遠　藤原長能　藤原為時　藤原為頼　藤原忠見　藤原義孝　藤原実定　藤原俊成　藤原公経　藤原家隆　藤原雅経　藤原秀能　藤原定家　藤原家長　藤原雅有　藤原為家　藤原為氏　藤原為教　藤原為相　藤原為世　藤原為兼　藤原為秋　藤原為定　藤原為忠　藤原為尹　藤原為冬　藤原為重　藤原為右　藤原為行　藤原為盛　藤原為綱　藤原為村　藤原為雄　藤原為信　藤原為氏　藤原為教　藤原為相　藤原為世　藤原為兼　藤原為秋　藤原為定　藤原為忠　藤原為尹　藤原為冬　藤原為重　藤原為右　藤原為行　藤原為盛　藤原為綱　藤原為村　藤原為雄　藤原為信

四　牛込見附



五　常盤橋門址

## 四　牛込見附

麹町區富士見町より牛込神樂坂に通ずる門で、牛込口または牛込門ともいひ、此邊に楓樹があつたので俗に紅葉門とも呼んだことがある。寛永十三年幕府が江戸城の修築を諸侯に命じた時、此見附は蜂須賀忠英が營んだもので、恐らく此時新に出來た見附と思はれる。今は殆んど舊態を失ひ、僅に石垣のみに其名殘りを留めて居る。

## 五　常盤橋門址

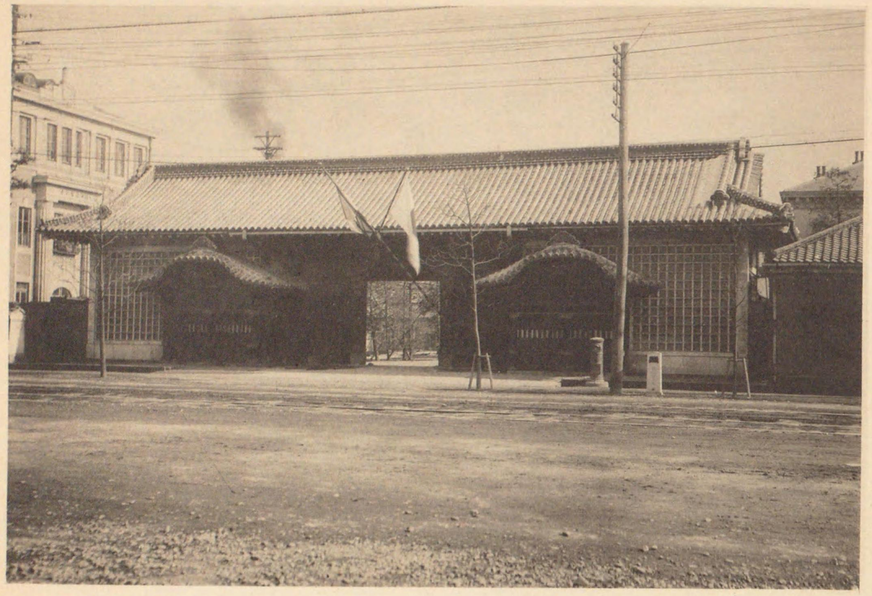
古くは淺草口または追手口といつた。慶長三年の古圖にも既に此處に橋が架かつてゐて大橋といつたことが知られるが、三代將軍家光は「色かへぬ松によそへて東路の常盤のはしにかゝる藤なみ」とある古歌に因みて常盤橋と改めしめたとのことである。維新後門は取毀たれて石垣の一部のみを存して居る。

## 六　薩摩藩邸正門（日比谷公園前華族會館正門）

此地もと薩州侯の屋敷で、琉球人來聘の際、此處裝飾を改める例になつて居たから、俗に裝飾屋敷と云はれたが、卽ち其正門であつた。左右に唐破風造の兩出番所と兩潛門とを有する長屋門で、諸侯の邸宅に在りし正門としては格式の高きものに屬し、兩出番所の左右全部を竪瓦張の海鼠壁とせるは他に類例を見ぬ珍しきものである。

## 七　黑田藩邸の長屋（外務省構内）

今の外務省は舊筑前福岡の黑田藩邸で、所謂大名屋敷の一である。當時の遺構としては海鼠壁の長屋が存して居る。武家屋敷の多くには此種の長屋があつて家臣の身分の低い者の居住に充てたものであるが、大抵取毀されて現存するものが甚だ少いから、保存を要すべきものと思はれる。



六　薩摩藩邸正門

七　黑田藩邸長屋

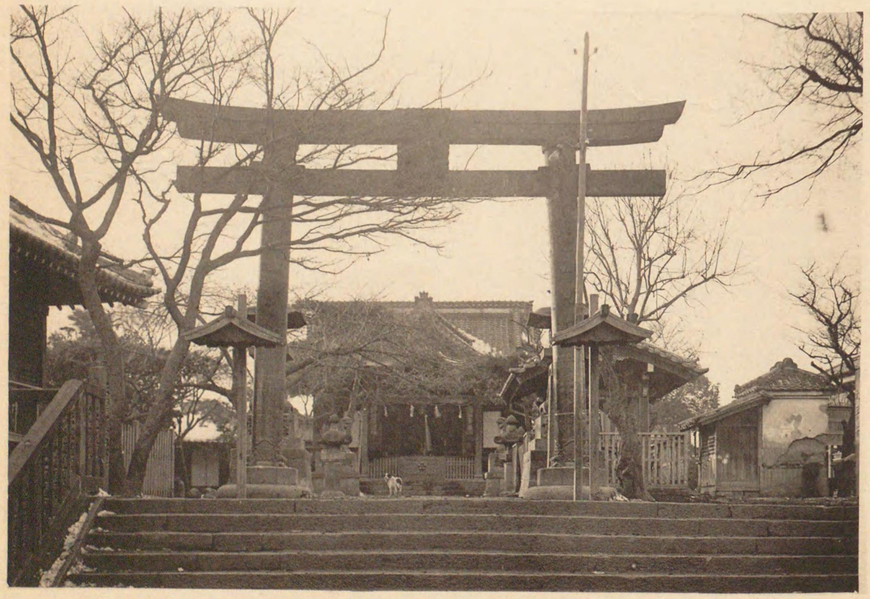
## 八　日枝神社（麹町區永田町二丁目）

もと武藏入間郡仙波の無量壽寺にあつたのを、文明中太田道灌が江戸城内に勸請したのである。德川氏入國の際には北曲輪の内にあつたが、慶長中半藏門外なる三宅坂上に移し、更に萬治二年に現在の社地に移したのである。德川氏は當社を以て產土神となし崇敬甚だ厚く世子出生の際には必ず參拜することになつて居た。其祭禮は盛大を極めて將軍の觀覽に入れしもので、俗に御用祭又は天下祭といつた。從來日吉山王大權現と稱せしを明治元年今の社名に改め、其五年府社に列し尋で官幣中社となり大正元年官幣大社となつた。國寶には豐後行平の絲卷太刀以下九口の刀劍がある。

## 九　平川天神社（麹町區元平河町）

文明十年太田道灌が天滿宮を勸請して江戸城の東北門なる平河口梅林坂に創建せし古社である。德川氏入國の後、慶長年中に今の地に移されたので平川天神と云つたのである。明治六年村社に列せられた。

八　日枝神社



九　平河天神社

249074

## 一〇 靖國神社（麴町區九段坂上）

明治二年六月の創建である。始は東京招魂社と云ひ、戊辰の役官軍戰死者の亡靈を祀られたのである。同八年には嘉永六年以後の國事に斃れし人士を合祀し、續いて佐賀臺灣、西南、日清、北清、日露、歐洲の諸戰役に戰死せる軍人軍屬の靈を合祀されて居る。明治十二年六月今の社號に改めて別格官幣社に列せられた神社の正面には東京市に於ける最初の銅像である兵部大輔大村益次郎の銅像があり、其周圍には伊豆韮山の反射爐で江川太郎左衞門英龍が鑄造した我國最初の新式大砲が置いてある。

## 二 瀧澤馬琴宅阯の井戸（麴町區飯田町二丁目）

馬琴の宅阯は今も其子孫が居住して居る。當時の家屋や庭園は數回の火災の爲め全く舊態を失ふに至つたが、僅に宅内に在りし井戸のみに名殘を止めて居る。彼の大作里見八犬傳を始め幾多の著述が此井水を汲んで記されしかと思へば、見棄て難き井戸である。

## 三 菊の井（麴町區有樂町）

今上陛下御產湯の井戸である。此邊は近頃まで中山侯爵の邸宅ありし處なるが今は人家が立ち並びて當時の狀態を想像し難き程となり、其井戸のみは平野家の構内に存し、菊の井と稱して保存されて居る。

一〇　靖國神社

一二　菊の井

一一　瀧澤馬琴宅阯の井戸

249074

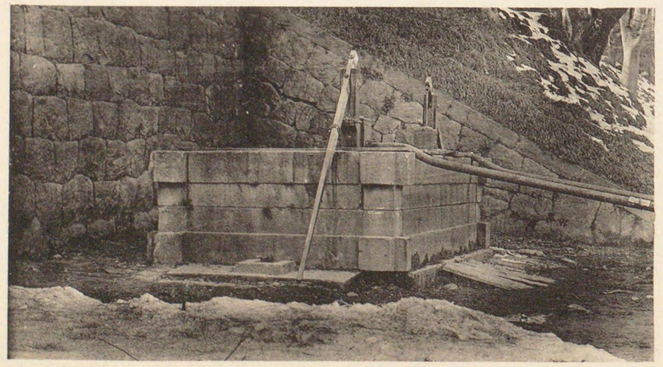
## 一三 柳の井（麹町區皇居内清水坂下）

古くは若葉井と呼ばれてゐたが其側に柳が植ゑられてから何時しか柳の井と云ふ樣になつたといふ。水質甚だ清冽にして旱天にも涸るゝことがないので江戸の名水として聞えたものである。

## 一四 櫻が井（麹町區櫻田門外參謀本部正門左脇）

井伊侯表門の下に在りしもので、石を以て組み上げ徑九尺程あり釣瓶の車が三つ掛け並べられたといふ大井戸で、しかも其水が清冷であるので江戸の名水と呼ばれたが、今は僅に路傍に殘存して撒水の用に充てられてゐる。

一三　柳の井



一四　櫻が井

一五　五番町の櫻（麴町區半藏門外）

掘端に添える英國大使館前の廣場には數百株の櫻樹がある花時には堀を隔てゝ皇城の老松と相對し、一種の美觀を呈して覺えず行人の足を止め、市内の一景勝と云ふべきである。これ等の櫻樹はアーチスト、サトウが英國公使たりし頃東京府へ寄附して植栽せしものである。

一六　辨慶橋（麴町區紀尾井町）

赤坂見付より山王臺を圍りて虎之門に至る間は江戸城の外濠にして溜池と呼び、神田、玉川の兩水道成らざる頃此池水を上水と爲せしものである。其後池中に蓮を植えしことありて花時奇觀を呈せしが、維新後辨慶橋を架けて赤坂方面との交通を便にし、尋で是より下流を埋立てゝ人家と爲せしより僅に一部に舊態を止むるに至つた。蓊鬱たる樹林は池水と相待ちて熱鬧の衢に清新の氣を添ゆること寡からざるものがある。

一五　五番町の櫻

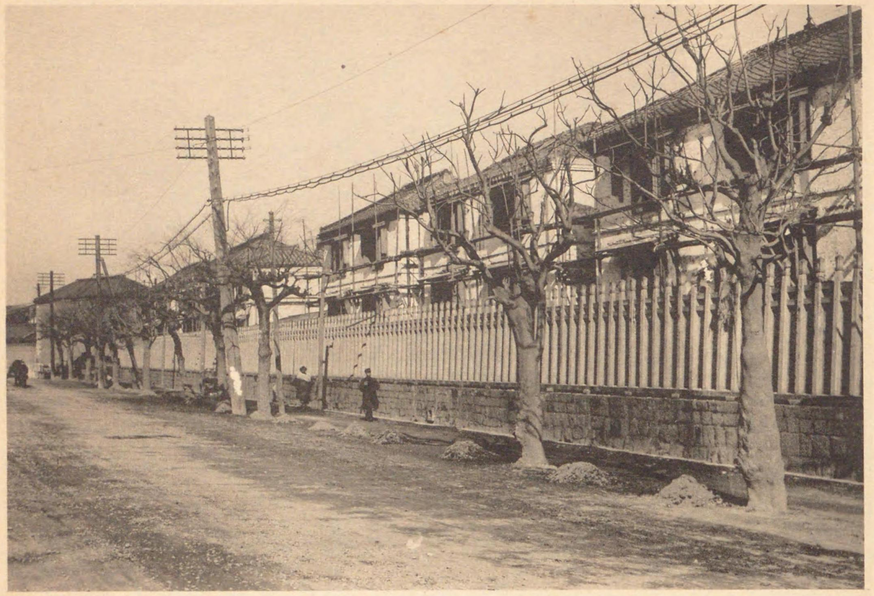
一六　辨慶橋

## 一七　大手町の並木（麴町區）

内務省裏手の堀に添える道路にある並木で樹名は神樹ニハウルシなどである。市街地の道路に並木を植ゆるは明治初年からのことで、大久保利通が内務卿たりし頃、始めたのである。其後市區改正等の爲め當時のものの存するは、大手町元衞町の邊のみで、市内最初の並木とも云ふべきである。

## 一八　神田神社（神田區宮本町）

古くは今の麴町區大手町附近に當れる芝崎村の地に在りて、江戸氏及び太田氏等の尊信した神社である。慶長八年神田駿河臺に移して洲崎神社を合祀し、更に元和六年今の地に轉じたのである。將軍家の崇敬篤く、其祭典の如きは日枝神社と隔年に行ひ、江戸の二大祭と云はれた。明治五年府社に列せられた。



一七　大手町の並木

一八　神田神社

### 一九　白木屋の井戸（日本橋區通一丁目）

名水を以て聞えし井戸で、江戸城の大奥からも汲みに來たと云はれて居る。水道の設備行屆ける今日に於ては、井水の良否は心に留めざる樣になりしも、殊に良水に乏しき日本橋方面に於ては當時稱賛されしものである。

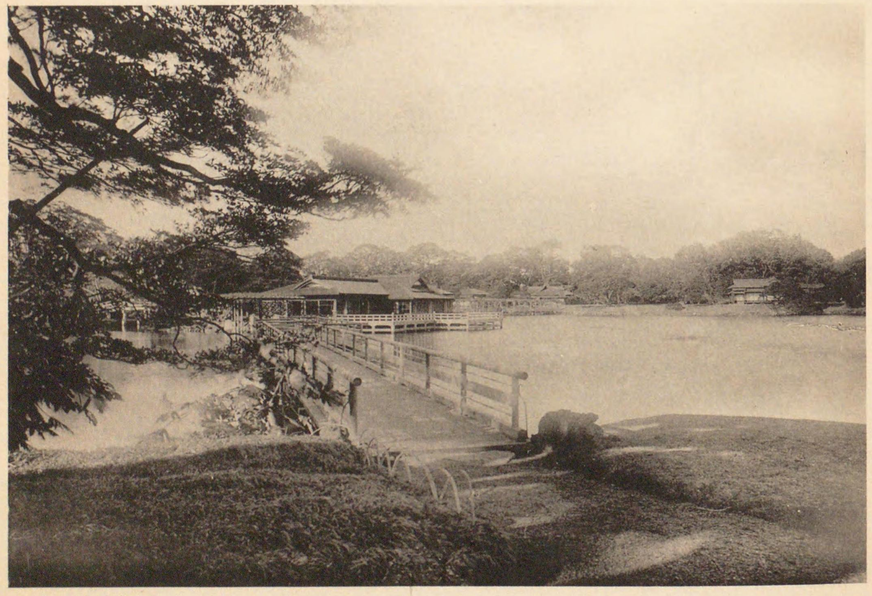
### 二〇　西本願寺別院（京橋區築地三丁目）

俗に築地門跡と稱せられ、京都西本願寺の別院である。元和三年今の日本橋濱町二丁目に創立して、始は江戸海邊坊舍と云ひしを、後ち濱町御坊と呼び明暦三年の大火後、此に移りて築地御坊と云ふ樣になつた。屢々火災に罹りて本堂以下近年の建築なれど、市内屈指の寺院である。

一九　白木屋の井戸

二〇　西本願寺別院

濱離宮（其一）

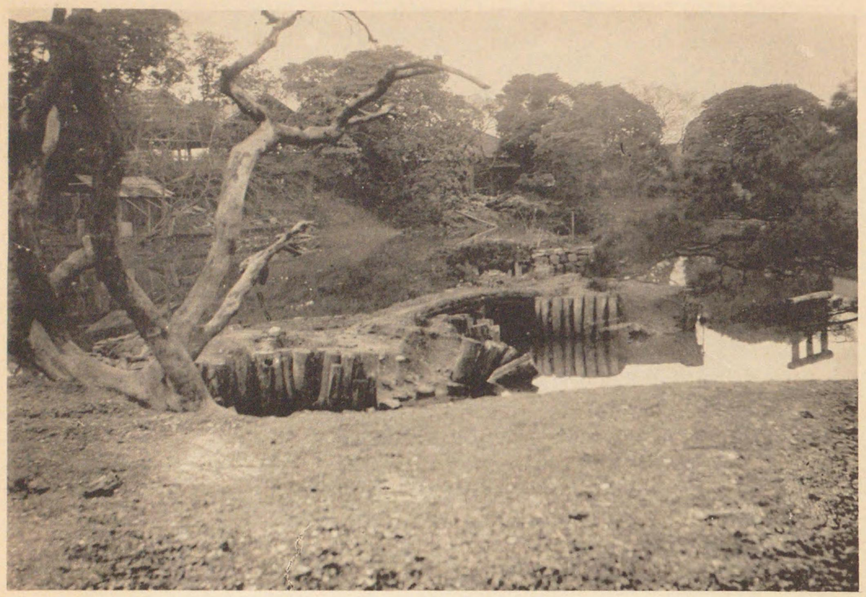


同上（其二）



## 三濱離宮（京橋區築地）

承應三年松平綱重始めて別邸を此に營みしが、其子家宣將軍の世子となるに及び西丸用邸と爲して濱御殿と稱したのである。維新後宮內省の所管となり濱離宮と稱せられる。



浴恩園阯（其一）

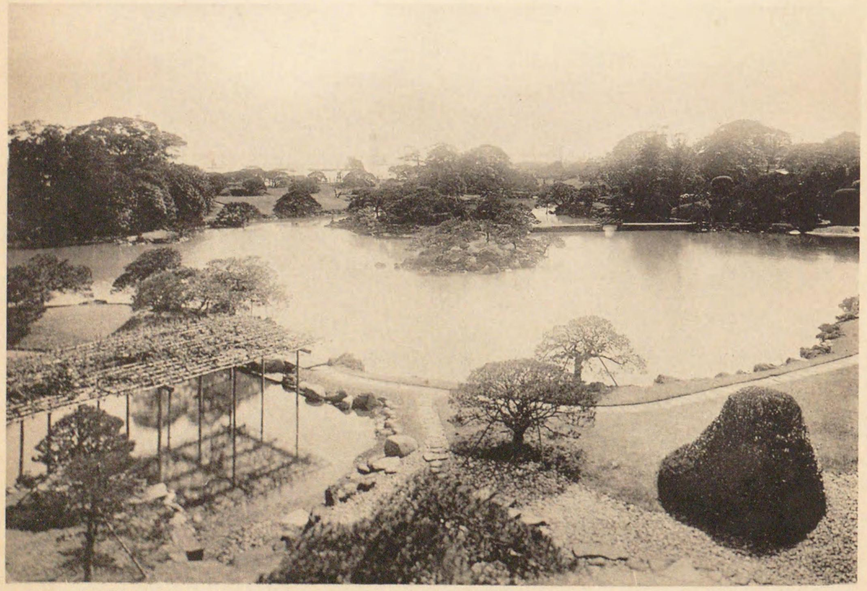
同　上（其二）



## 三　浴恩園阯（京橋區築地海軍造兵廠内）

白河藩主松平定信がその別邸に築ける庭園である。地域廣大眺望に富み、其海濱にあるので自由に海水を池中に導くことを得、景致の特に佳なるものがあつた。維新後海軍造兵廠となつて大に面目を損し、今は僅に往時の名殘を存するのみである。

芝離宮（其一）

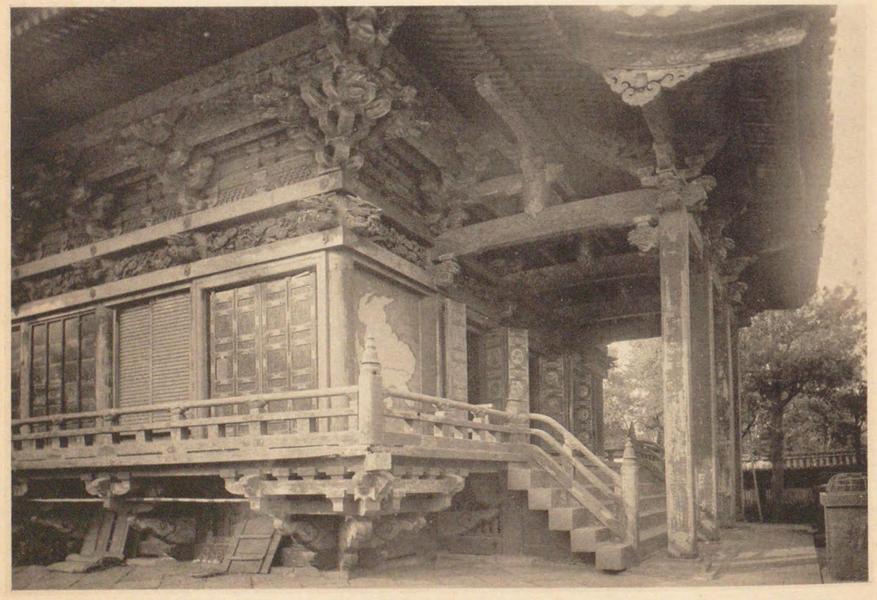


同上（其二）

## 三三　芝離宮（芝區濱崎町）

維新前紀州藩主の濱屋敷であつたが、明治四年有栖川宮邸と爲り、同九年に離宮となつたものである。芝浦の海濱として風光に富み、境域廣大にして三萬餘坪ある。

二四　芝大神宮



二五　東照宮

### 三四　芝大神宮（芝區宮本町）

もと今の増上寺附近に在りて飯倉神明と呼びしを今の地に移して修造を加はられたのである。俗には芝神明といひ、明治五年府社に列せられた。

### 三五　東照宮（芝區芝公園内）

元和三年の創建に係り、増上寺の管理に屬して居たのである。明治六年に至り從來安國殿と稱せしを今の社號に改むると共に鄉社に列せられたのである。建築は權現造の華麗なもので、其本殿は特別保護建造物に指定された。

## 云 增上寺（芝區芝公園内）

三緣山廣度院と云ひ、淨土宗の關東總本山である。始は麴町の貝塚の地に在りしが、存應の時德川氏の入國ありて其菩提所となり、慶長三年今の地に移りて大に規模を擴張し存應を以て中興開山として居る。爾來寺格は切りに進んで、關東十八檀林の第一に推され、その貫主は大僧正に補せらるゝ樣になり、寺領一萬餘石を有して、勢威上野の寛永寺と拮抗し、堂舍建ち並びて八十餘宇の學寮、五十餘宇の子院もあつた。維新後舊寺域は公園と爲り本堂以下火災に罹る等往時の盛觀を失ふと雖も、尙は市内の大伽藍である。寺寶の法然上人繪卷と、宋、元及び高麗の三部の大藏經とは國寶と爲つて居る。

### 增上寺三門

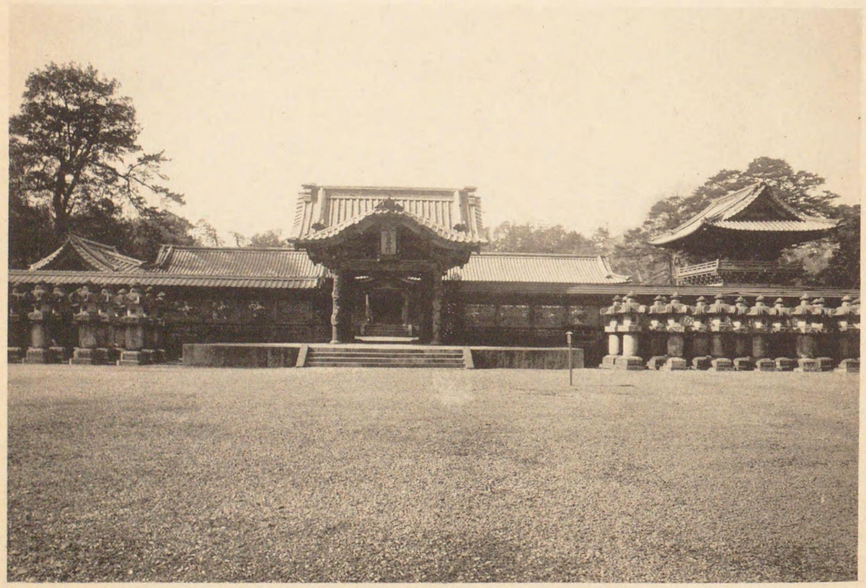
增上寺は慶長中此地に移築されたものなるが屢々火災に遭ひて舊時の建築物の現存するは、僅に二三に過ぎぬ。この三門は三解脫門と云ひ、寛永元年の建築後、幸に其難を免れたもので、市内の建築物中最も古く、江戸時代初期の樣式を存して居る。五間三戸の朱塗の樓門で、特別保護建造物に指定された。

增上寺門

## 二七　徳川氏靈屋（芝區芝公園内）

徳川氏の靈屋は増上寺の本堂を挾みて南北の二方に在るが、其北靈屋には六代將軍文昭院家宣と七代有章院家繼との兩靈屋がある。第二七の上圖は家宣の靈屋で、十二代愼德院家慶、十四代昭德院家茂及び同夫人靜寛院内親王の位牌が併せて此に安置してある。下圖は家繼の靈屋で、九代惇信院家重及び家繼の祖父綱重の位牌が共に安置されて居る。

徳川氏靈屋（六代）　二七



同　上（九代）

## 二八　徳川氏靈屋（芝區芝公園内）

上圖は二代將軍台德院秀忠の靈屋である。寛永九年秀忠薨ずるや、增上寺は家康以來の菩提所たるを以て此に葬られた。即ち其年より同十二年までに土井利勝が奉行して關東の諸侯其役を助けて成つた建築である。本殿は權現造で靈牌を安置し、墓廟は遠く離れた八角堂で、唐門以下の建物が附屬して居る。

下圖は、二代將軍秀忠の、夫人崇源院の位牌が安置される靈屋である。四代家綱、六代家宣、十二代家齊、十三代家定の各夫人の位牌も、併せて此に納められて居る。

二八　徳川氏靈屋（二代）

同　上（二代裏方）

編輯・発行　奈良文化財研究所文化財情報センター
古墳調査ハンドブック　尚井郷遺跡の調査
令和5年3月31日発行
発行者　成山正重
印刷・製本　株式会社ビーコム

丸山五重塔　二九

## 二九　丸山五重塔（芝區芝公園內丸山）

台德院廟に屬するものにて、酒井雅樂頭の創建に係り、文化中火災に罹りて再建したのである。今は市の管理に屬して居る

## 三〇 金池院（芝區芝公園內）

勝林山と云ひ、臨濟禪にして南禪寺派に屬して居る。慶長十三年京都南禪寺金池院の崇傳が德川家康に召され、其信任を受けて幕政の樞機に參し、駿府城內に金池院を建てゝ住したのが此寺の始である。其後家康の薨ずるに及んで江戸城內の楓山に移し、寛永十五年崇傳寂して今の地に轉じたものである。舊幕の頃は寺領七百石を有して五山派の僧錄所であつた。

## 三一 青松寺（芝區愛宕町）

萬年山と云ひ、曹洞禪である。同宗では江戸三箇寺の隨一に擧げられた大刹で、德川氏入國前に存在して居つた。慶長年中までは貝塚の地に在りしを、今の地に移したものである。

三〇　金池院

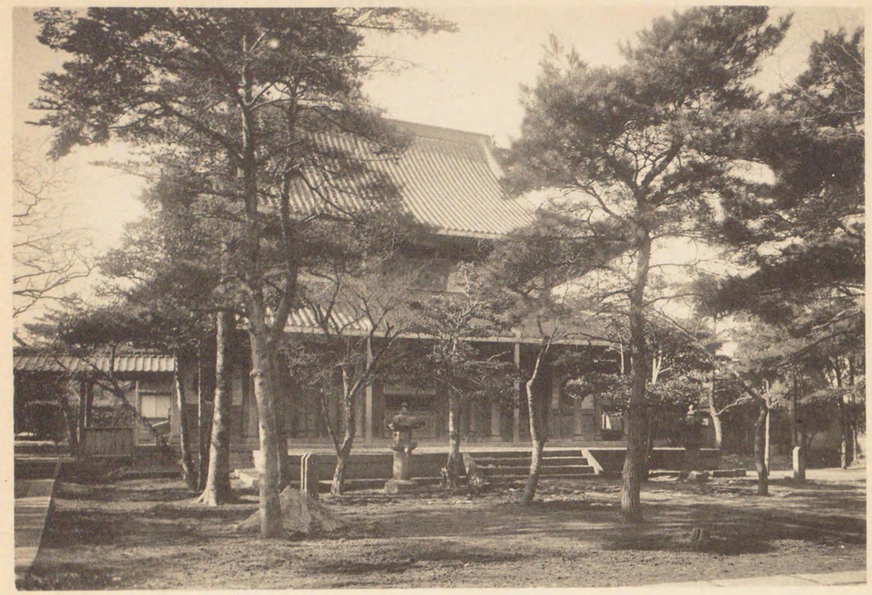
三一　青松寺

## 三瑞聖寺（芝區白金臺町一丁目）

紫雲山と云ひ、黄蘗禪の巨刹である。藏經開板の大業を成した鐵牛が寛文十年に創立する所なるが、木菴を請して開山とし、鐵牛は第二世となつて居る。

## 三東禪寺（芝區下高輪町）

佛日山と云ひ、臨濟宗妙心寺派である。慶長中嶺南の開創せし所で、始は麻布溜池に在りしを、寛永十三年此に移して東禪寺と稱するに至つた。仙臺、岡山、鳥取等諸侯の菩提寺で、寺内には諸侯を始め名士の墓がある。尙ほ幕末に外國人が寺内に止宿して英國公使館を置きしが、文久元年浪士が之を襲撃したことがある。



三二　瑞聖寺

三三　東禪寺

即ちるとかの隣社るとちたえ線に常のやるとい思ひ
居泉来關ゐるたりたつ兼に前墓の逝年と、夫の
れる兼は見ゆるる津の義の義士義、ゆ、に加に世く離は各の者な
れる兼に就るゆたつの大士義の義士義の墓の義の士義の上に
墓義士義赤　三

（四藩義士墓泉岳寺）

よ語
て有る強に推く考て貝空と墓の士義墓赤に内寺、あるの式し接に地の今半八
十永寛、し建前に用墓外て付変を命の湘墓寺湘墓寺開治明全七十貴墓、ゆ大て寺大式は
陣る寺藩三戸江の治河幕て寺伊と寺松内寺の上自愛寺泉墓の市藩の兵と山松寺

（四藩義士墓泉岳寺）

三四　泉岳寺

三五　赤穂義士墓

## 三四　泉岳寺（芝區車町）

萬松山と云ひ、橋場の總泉寺、愛宕下の靑松寺と併せて曹洞宗の江戸三箇寺と呼ばれた大寺である。慶長十七年僧宗關が幕府の命を受けて外櫻田に創建し、寛永十八年今の地に移したのである。寺内に赤穂義士の墓あるを以て、多く世に知られて居る。

## 三五　赤穂義士墓（芝區高輪泉岳寺墓地内）

元祿十四年赤穂藩主淺野長矩の自盡するや、其菩提寺であつたから此に葬られた。尋で大石良雄等の義士切腹の事あるや、長矩の墓側に葬つたのである。爾來泉岳寺の名は廣く世に知られ、義士の墳墓に詣づるもの常に絶えざる有樣である。長矩及び義士の墓は史蹟として指定された。

## 第三　大阪商業

（第二回内国勧業博覧会出品）

明治十四年頃の大阪は、人口三十万、戸数六万、商業の繁盛は、東京に次ぎ、横浜・神戸・長崎・函館の諸港に比べて、貿易の盛んなる事、実に第一位を占め、諸国の産物、大小の商品、ことごとく集まり、人情の活潑、物産の豊富、実に東京に次ぐ大都会なりしが、維新以来、東京の繁盛、日に月に増し、大阪は、ただ、商業の繁盛、人口の増加、ともに、東京に比べて、大いに、劣るに、至れり。

## 第四　大阪商業

（第二回内国勧業博覧会出品）

明治十四年頃の大阪は、人口三十万、戸数六万、商業の繁盛は、東京に次ぎ、横浜・神戸・長崎・函館の諸港に比べて、貿易の盛んなる事、実に第一位を占め、諸国の産物、大小の商品、ことごとく集まり、人情の活潑、物産の豊富、実に東京に次ぐ大都会なりしが、維新以来、東京の繁盛、日に月に増し、大阪は、ただ、商業の繁盛、人口の増加、ともに、東京に比べて、大いに、劣るに、至れり。

## 第五　大阪商業

（第二回内国勧業博覧会出品）

明治十四年頃の大阪は、人口三十万、戸数六万、商業の繁盛は、東京に次ぎ、横浜・神戸・長崎・函館の諸港に比べて、貿易の盛んなる事、実に第一位を占め、諸国の産物、大小の商品、ことごとく集まり、人情の活潑、物産の豊富、実に東京に次ぐ大都会なりしが、維新以来、東京の繁盛、日に月に増し、大阪は、ただ、商業の繁盛、人口の増加、ともに、東京に比べて、大いに、劣るに、至れり。

### 三六　大久保忠教墓　（芝區白金三光町立行寺内）

忠教は彦左衛門と稱し、德川氏創業の功臣である。一旦沼津の地二萬三千石に封せられたが故ありて之れを除かれ、後ち三千石を賜ひて旗本となつた。其奇矯な逸事は多く人口に膾炙して居る。寛永十六年二月晦日八十歳で歿した。

### 三七　大岡忠相墓　（芝區三田功運町功運寺内）

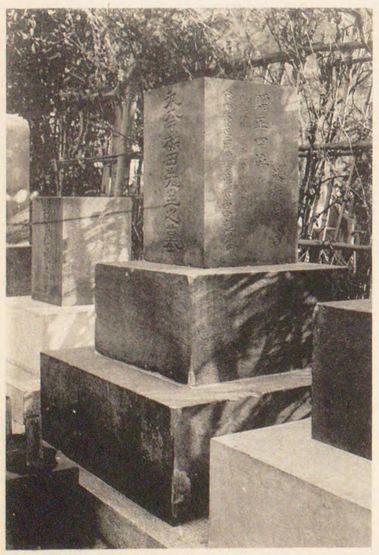
忠相通稱は忠右衛門、越前守と云ひ幕府の旗本である。町奉行、寺社奉行などに歷任し、何れも訴訟の裁決に妙を得、名奉行として世に聞え、寛延元年西大平の地一萬石を賜ひて大名と爲つた。歿したのは寶曆元年で時に歳七十五である。

### 三八　杉田玄白墓　（芝區四久保巴町天德寺中榮閑院内）

玄白名は翼、鵠齋と號し、若狹小濱藩の醫官である。和蘭學者として其功蹟多く、文化十四年四月十七日八十五歳で歿し、維新後正四位を贈られた。

三六　大久保忠教墓

三七　大岡忠相墓



三八　杉田玄白墓

[illegible]

[illegible]

図 [illegible] (縮尺[illegible])

[illegible]

[illegible]

図 [illegible] (縮尺[illegible])

[illegible]

[illegible]

図 [illegible] (縮尺[illegible])

三九　荻生徂徠墓（芝區三田豐岡町長松寺内）

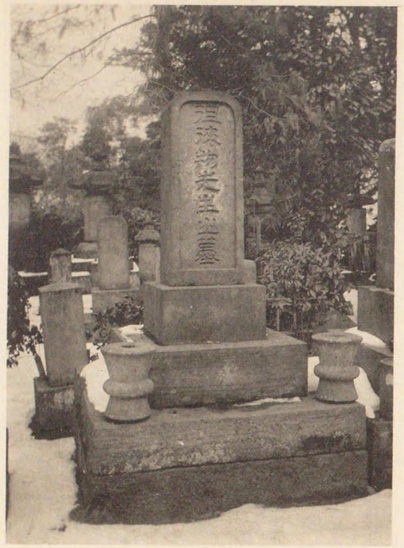
徂徠本姓は物部、名は双松、字は茂卿、一に蘐園と號し、惣右衛門と通稱した。復古の學を唱へて一時を風靡した儒學の大家で、日本橋茅場町に住で居た。享保十二年正月十九日六十三歳で歿した。

四〇　英一蝶墓（芝區二本榎二丁目承教寺中顯乘院内）

一蝶は多賀氏にして、通稱助之進また次右衛門と云ひ、大阪の人である。初め狩野派を學び、後ち一派を開きし畫家であつて、俳諧をも能くした。享保十年正月十三日七十三歳で歿した。

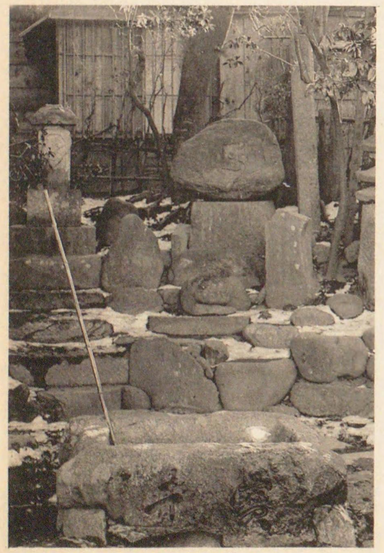
四一　榎本其角墓（芝區二本榎木町上行寺内）

其角は別號を寶晋齋また狂雷堂と云ひ、源助と通稱した。俳諧を以て名があり、芭蕉に師事して所謂蕉門十哲の隨一に推されて居る。寶永四年二月三十日四十七歳で歿した。



荻生徂徠墓　九三

英一蝶墓　〇四



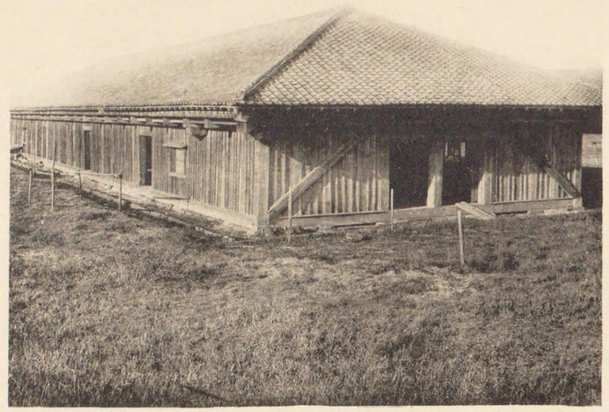
榎本其角墓　一四

## 跋

[illegible]

## 四二 品川臺場

嘉永六年江戸防備の爲め、品川海上に築造したものである。老中阿部正弘等命を受け、川路正謨、江川英龍等之れに關かり、御殿山及び泉岳寺より土壌を運んで築いた大工事である。台場は十一個を營む計畫であつたが、二個は半成で、四個は着手に及ばず實際に出來上がりしは五個である。維新後陸軍省の管理となり、尋で砲台は撤廢されて他に利用するもあるが、第六台場は市の所有に歸して居る。



品川台場内部　二四

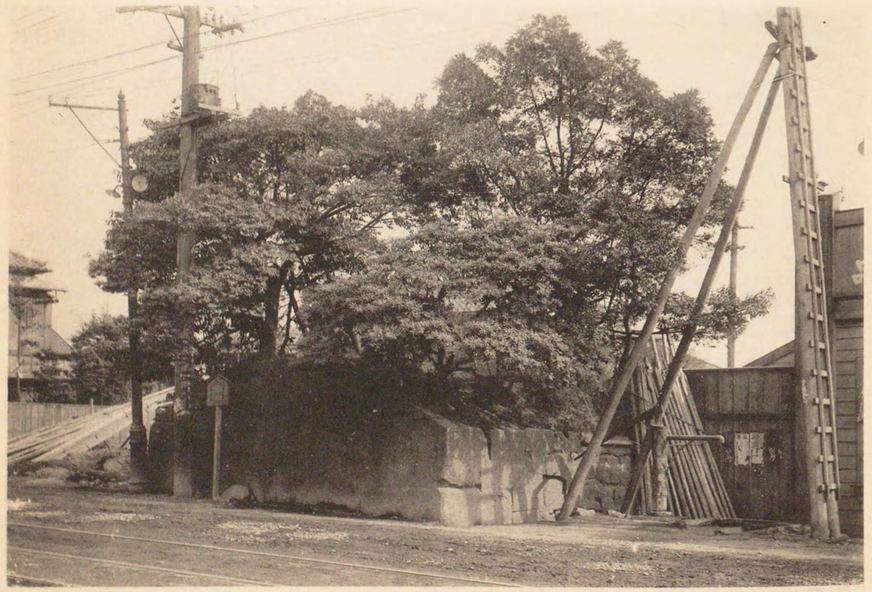
同上遠景

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四三　舊新橋停車場



四四　高輪大木戸阯

## 四三　舊新橋停車場（芝區汐留一丁目汐留驛）

明治五年京濱間の鐵道始めて成り、其開通式には明治天皇の行幸があつて勅語を賜つた。爾來東京驛の建設に至るまで全國鐵道の首腦驛であつた。其建物は我國初期の西洋建築の標本と云ふべきである。

## 四四　高輪大木戸阯（芝區車町と田町との堺）

江戸時代に一町毎に木戸を設けて自身番に開閉せしめたが、此木戸は江戸の入口として規模の大なるものありしより此名がある。此處にて往來の客は旅裝を改め、送迎の者も多く此處を限りとしたのである。今は道路の左右にありし石垣が僅に一側に存するのみである。

## 四五 丸山古墳（芝區芝公園内）

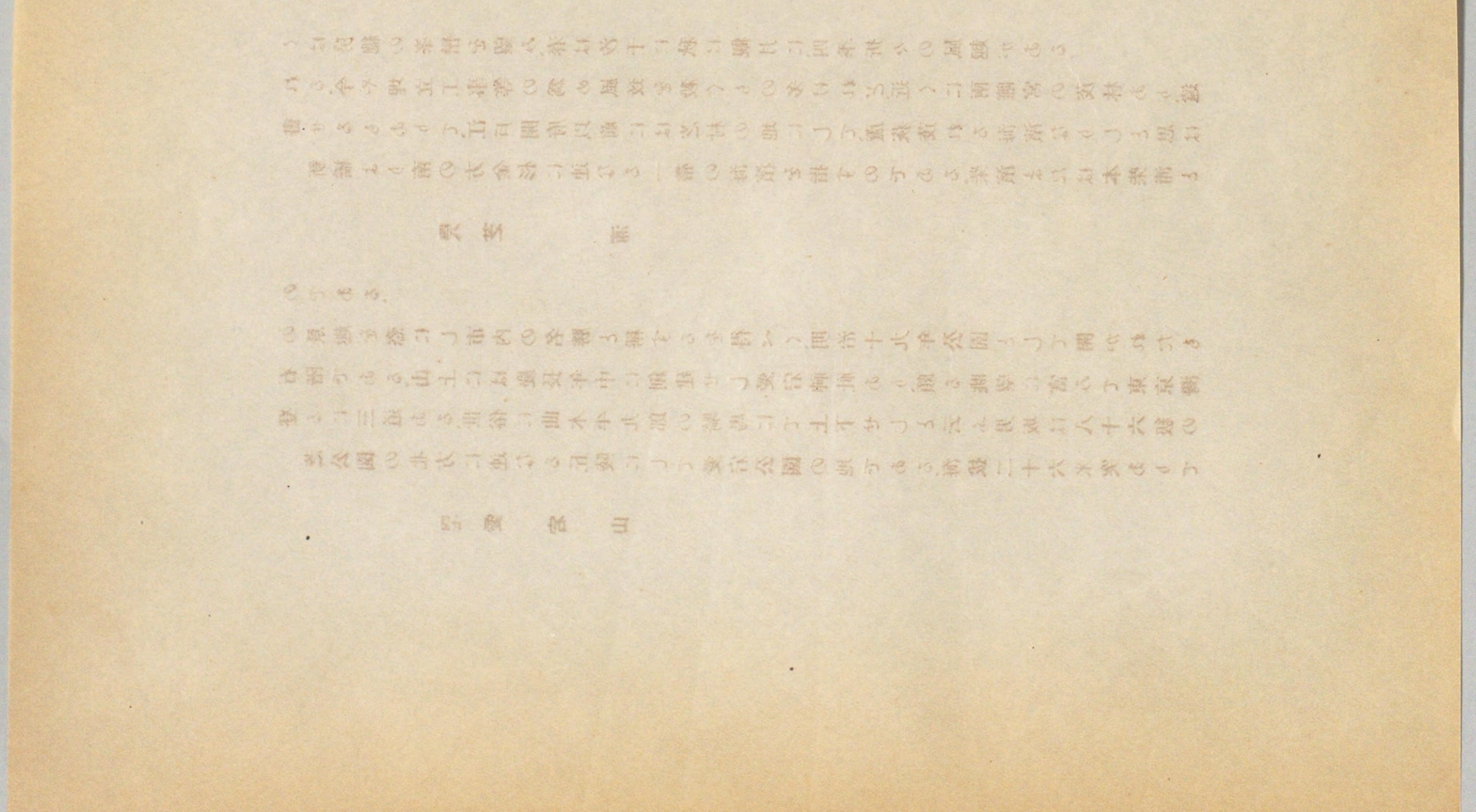
丸山の五重塔附近には大小の古墳が十數個存在して居る。其一個は長徑六十間に達する前方後圓の南面せる大古墳で、伊能忠敬の紀念碑は卽ち其後圓部の上に建てられ、其他の古墳は小き圓形のものにて陪塚とも見られる。何れも上代貴族の墳墓にして、先年調査の際には石槨内より人骨、刀劍、馬具、陶器及び玉類を發見し、また埴輪土偶なども出たことがある。

## 四六 丸山貝塚（芝區芝公園内）

丸山の東側なる梅林の處にある。先住民の石器時代遺蹟で、貝殼に交つて當時の土器の破片及び獸骨などを出せしことがある。其殼は何れも鹹水產貝類のものなれば、古くは尙ほ海濱に近かりしと思はれる。

四五　丸山古墳

四六　丸山貝塚



## 四七 愛宕山

芝公園の北方に連なる丘陵にして愛宕公園の地である。海拔二十六米突ありて登るに三道ある。世俗に曲木平九郎の騎馬にて上下せしと云ふ男坂は八十六級の石階である。山上には慶長年中に創建せし愛宕神社あり、頗る眺望に富みて東京灣の景趣を恣にし市内の名勝と稱するを得べく、明治十九年公園として開かれたものである。

## 四八 芝浦

新橋より南の方金杉に連なる一帶の海濱を指すのである。柴濱または本柴浦と書せるもありて、江戸開府以前には芝村の地にして、蘆荻茂れる海濱なりしと思はれる。今や埋立工事等の爲め風致を殺ぐもの多けれど、近くに兩離宮の茂林あり、遠くは房總の峯巒を望み、春は汐干に秋は觀月に、四季折々の風趣がある。

愛宕山　七四

芝浦　八四

本書は明治時代の一大文学者である。

幸徳秋水の手紙は、その時代の思想界に対する一種の警鐘であり、また、同じく時代の思想界に対する一種の警鐘たる、彼の国に於ける革命家たちの、獄中、または、獄外に於ける、生活、思想、および、行動の、ありのままの、記録である。

## 第一篇　獄中の秋水

獄中の秋水は、一日、一日、刻々、死に近づいてゆく、彼の、獄中、または、獄外、の、生活、思想、および、行動、の、ありのままの、記録である。

## 第二篇　獄外の秋水

獄外の秋水は、一日、一日、刻々、死に近づいてゆく、彼の、獄中、または、獄外、の、生活、思想、および、行動、の、ありのままの、記録である。

四九　增上寺の娑羅双樹

五〇　東照宮の公孫樹

## 四九　增上寺の娑羅双樹（芝區芝公園内）

九代將軍家重の墓側に在りて幹の廻四尺程ある。本來熱帶產の植物であるが能く發育して居る。墓側に在る樹木は將軍の遺愛を移植したと云はるゝから、恐く娑羅双樹も其一かと思はれる。

## 五〇　東照宮の公孫樹（芝區芝公園内東照宮境内）

傳說には德川家康の手植と云ふも、固より信を措き難い。幹の圍二丈餘尺。高さ八丈に及び市内老木の一である。

五一　善福寺の公孫樹

五二　佐藤一齋墓

## 五一　善福寺の公孫樹（麻布區山元町）

善福寺は麻布山と云ひ眞宗本願寺派に屬して居る。德川氏入國以前からの古刹で、關東七靈場の隨一なるが寺内に逆さ公孫樹と呼ばるゝ老木がある。傳説には親鸞が地に挿した一枝より成長したといふ。幹の廻り三丈七尺餘、高さ十丈に及び其枝は東西二十間、南北十七間餘に張れる偉大なものである。

## 五二　佐藤一齋墓（麻布區六本木町深廣寺内）

一齋名は坦、字は大道、愛日樓とも號した。幕府に召されて昌平校の教授と爲り、一世を風靡して學徒三千を超ゆと云はれた。安政六年八月廿四日八十八歳で歿した。

## 五三 氷川神社（赤坂區氷川町）

武藏大宮なる氷川神社の分靈が祀られて居る。古くは一ッ木に在りしを享保十四年今の地に移したもので、江戸時代には嘗て將軍の參拜があり、二百五十石の社領を有した。明治五年府社に列せられた。

## 五四 憲法紀念館（赤坂區青山明治神宮外苑）

もと宮中に在りて憲法制定の議場に充てられ、先帝屢々臨御ありて御前會議も催された建物である明治四十二年附屬の調度と共に憲法制定の功勞者たる伊藤博文公に下賜せられ、一旦府下大井町の邸内に移されたが、明治神宮創建と共に獻納せられて今外苑の一角に建つて居る。

氷川神社

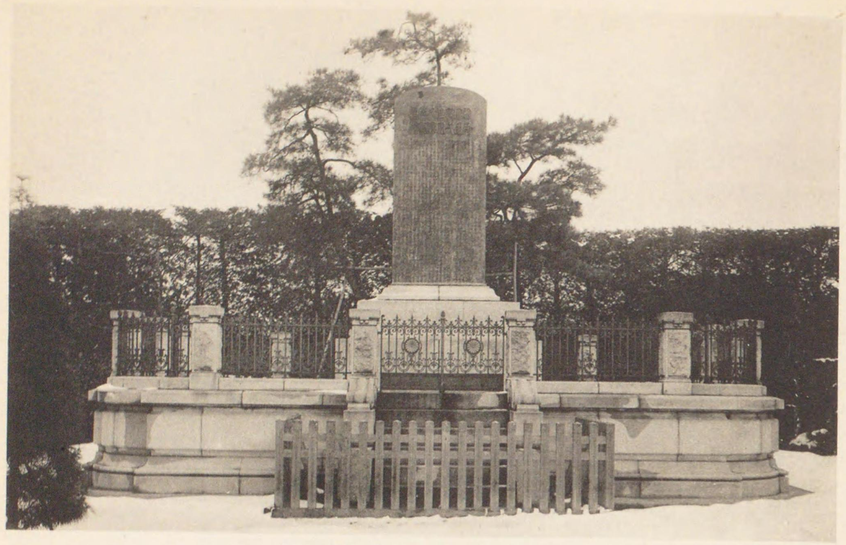
憲法紀念館

## 五五　大久保利通神道碑（赤坂區青山墓地内）

利通は幼名を正助、後ち一藏と改め、號を甲東といつた。鹿兒島藩士にして維新の大業に畫策し、東京遷都、廢藩置縣の如き其發議に由來するもの多く、參議内務卿と爲り、木戸孝允、西郷隆盛と併せて維新三傑の名がある。明治十一年五月十四日參朝の途上麴町區紀尾井町に刺されて斃す、時に四十八歳である。翌日右大臣正二位を贈られ、尋で勅して神道碑を其墓側に建てしめられた。

## 五六　明治神宮外苑のナンジヤモンジヤの木（赤坂區青山）

其名稱は樹種不明なるより俗稱したもので、却つて此俗稱の爲め多く知らるゝ樣になつた一種の名木とも云ふべきもので、幹の圍六尺程ある。



五五　大久保利通神道碑

五六　明治神宮外苑のナンジヤモンジヤの木

## 手川上水源（四谷区内藤町）

手川上水は井の頭池に水源をもつ玉川上水の分水で、四谷区内藤町の地内を流れていた。この水は明治末期に廃止されたが、今日でもこの地内には水路の跡がのこっている。

## 大鷹橋田一帯（現在の渋谷区内）

大鷹橋田一帯は、江戸時代には、武蔵国豊島郡の内であり、大鷹橋田の中央を流れていた。この水路は、今日では、ほとんどその跡を留めていない。

## 天王川（現在の渋谷区内）

天王川は、武蔵国豊島郡の内であり、天王川の中央を流れていた。この水路は、今日では、ほとんどその跡を留めていない。

## 五七 玉川上水碑（四谷區鹽町三丁目）

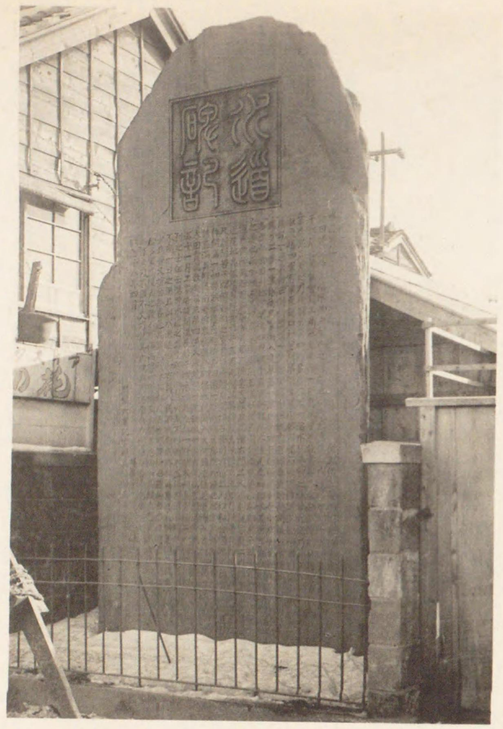
玉川上水は玉川庄右衞門、同清右衞門が慘憺たる苦心に依つて成つたもので承應二年工事に着手し、明暦年中に竣功した。是より先きに神田上水があつたが、此に至つて江戸の上水は略ぼ足りる樣になり、現今の水道も主として其水路に依つたのである。碑は明治十八年に建てたので昔の水番所の在つた場所である。

## 五八 塙保巳一墓（四谷區寺町愛染院内）

保巳一は武藏兒玉郡保木野村の人で、幼少の頃明を失ひ國學を修めて檢校と爲る。和學講談所を設立し、群書類從を纂輯した。文政五年七月九日七十七歳で歿し、安樂寺に葬つたが、其寺廢せらるゝに至り、隣地の愛染院へ改葬されたのである。維新後正四位を贈られた。

## 五九 河村瑞賢墓（四谷區内藤新宿天龍寺内）

瑞賢通稱は十右衞門、晩年平太夫と云ひ、伊勢の人である。土木治水の術に巧にして近畿の河川を改修し、江戸奥羽間の海路を開きし如き其功大なるものがある。元祿十三年六月十六日八十三歳で歿し、維新後正五位を贈られた。



五七　玉川上水碑

五八　塙保巳一墓

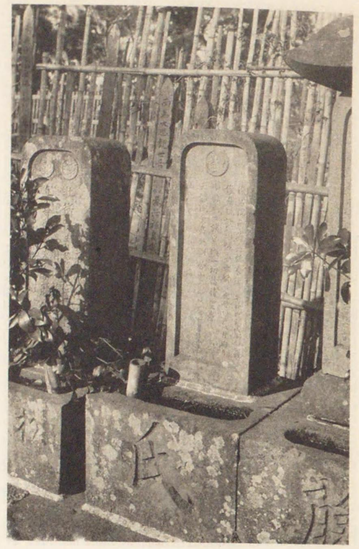
五九　河村瑞賢墓

六〇　山縣大貳墓（四谷區舟町全勝寺内）

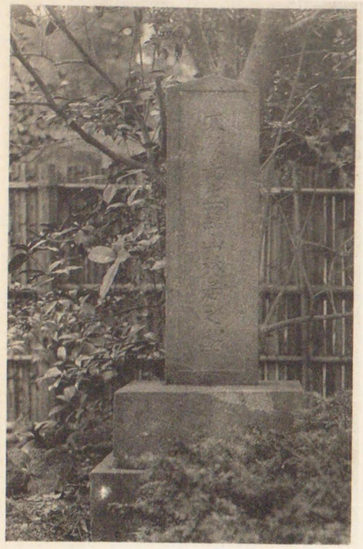
大貳名は昌貞、字は士明、大貳は其通稱である。兵學に通じ勤王の志士なりしが、幕府の忌む所と爲り、明和四年八月二十三日死刑に處られた、時に歳四十一である。維新後正四位の贈位があつた。

六一　林氏墓地（牛込區市谷山伏町林氏邸内）

もと上野にありしを元祿十一年今の地に移したのである。林氏は羅山が德川家康に仕へて經學を講ぜしより、世々家學を繼承して大學頭と爲り、幕府の學務に關つた家で、羅山以下春德、春齋、鳳岡、述齋等代々の墓が此處に在る。



六〇　山縣大貳墓



林羅山墓

六一　林氏墓地

## 六二 宗參寺（牛込區辨天町）

曹洞宗である。天文十三年小田原北條氏に屬せる牛込勝行が、其父重行菩提の爲に僧看榮を開山として創建し、重行の法號の雲居院實翁宗參に因みて雲居山宗參寺と稱した。

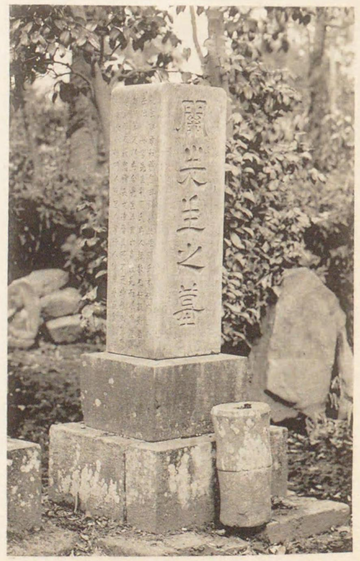
## 六三 關孝和墓（牛込區辨天町淨輪寺內）

孝和通稱を新助と云ひ、孝齋また自由亭と號し、上州藤岡の人である。數學の大家にして遂に關流を開いた。寶永五年十月廿四日、六十七歳で歿したが、維新後從四位を贈られた。

## 六四 山鹿素行墓（牛込區辨天町宗參寺內）

素行名は高祐、字は子敬、通稱は甚五左衛門、陸奥の人である。儒は朱子學を斥けて陽明學派を宗とし、最も兵學に達し山鹿流の兵學を開くに至つた。貞享二年九月廿六日六十四歳にて歿し、維新後に正四位を贈られた。

六二　宗參寺



六三　關孝和墓

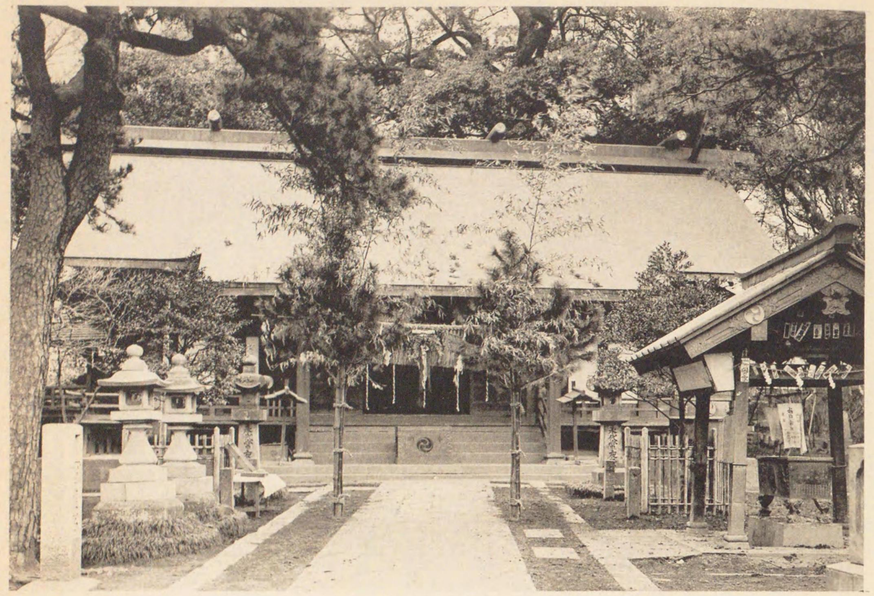
六四　山鹿素行墓

## 六五　市谷八幡神社（牛込區市ヶ谷八幡町）

俗に龜岡八幡と呼ばれて居る。文明中太田道灌が江戸城築造の時、城内鎮護の爲め鎌倉の鶴岡八幡宮を勸請した神社だと傳えられる。其後殆んど廢頽に屬せしを慶長中別當東圓寺の住僧源空が恢復を計り、德川氏に至りて社領の寄附もあり、明治五年には鄕社に列せられた。

## 六六　赤城神社（牛込區赤城元町）

正安二年上野の赤城神社の分靈を牛込氏が勸請せしもので、始は今の早稻田鶴巻町に在たのを、太田道灌の時此の地に移したと云はれて居る。天和三年幕府は江戸の大社に列して牛込の總鎭守となし、明治六年鄕社に列せられた。



市ヶ谷八幡神社　六五

赤城神社　六六

白山神社　六七

小石川植物園　六八

### 六七　白山神社（小石川區白山前町）

元和中今の帝國大學植物園の地に加賀の白山神社を勸請し、明暦元年白山御殿營築の時之を今の地に移した。明治五年鄕社に列せられた。境内に白旗櫻といふ櫻の老木がある。

### 六八　小石川植物園（小石川區白山御殿町）

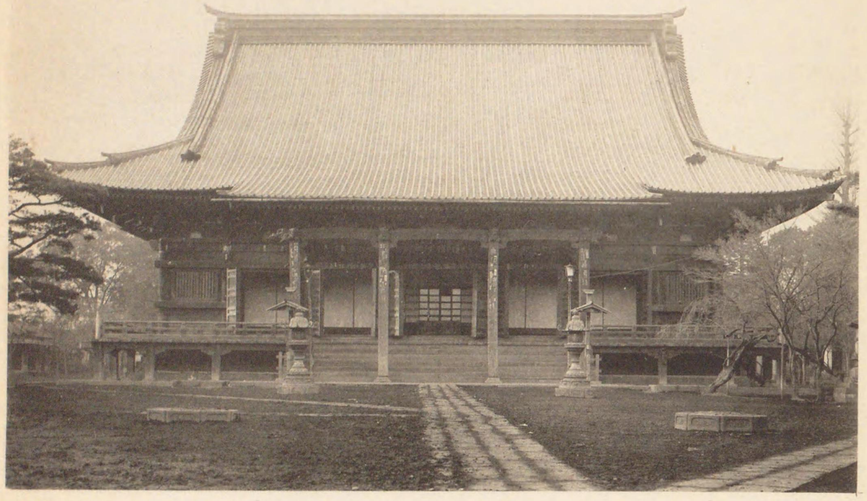
五代將軍徳川綱吉が舘林藩主たりし頃、下屋敷を此に置き白山御殿の稱ありしが、正徳中毀ちて幕府の藥園を置き尋で園内に扶養の途なき病者を收容して施藥のことをも爲さしめ之れを養生所と名づけた。維新の際養生所は廢せられ、大學に屬して醫學校藥園と云ひ、明治十年植物園に改められた。園内には石器時代なる貝塚を存するのみならず、面積廣大にして四萬八千餘坪を有し、加ふるに泉石の美に富めるより觀覽するもの常に絶えず、市内の一名勝と云ふべきである。

## 六九　護國寺（小石川區大塚坂下町）

眞言宗新義派に屬し神齡山悉地院と云ふ。元祿五年將軍綱吉が其生母桂昌院の請に依り將軍家光の持佛二臂如意輪の觀音像を本尊とし亮賢僧正を開山として創立し、同十一年に修造の功を竣はつた大刹で、千二百石の寺領が寄附されて居つた。國寶に尊勝曼荼羅圖と五鈷鈴とがある。

## 七〇　傳通院（小石川區表町）

淨土宗知恩院末である。應永二十二年の創建で無量山壽經寺と云ひ、開山は了譽である。慶長七年德川家康の生母水野氏を遺言に基いて此寺に葬むるに及び、其法號に依つて傳通院と改めた。爾來將軍家の歸向篤く、寺領六百石を寄附せられ關東十八檀林の隨一に擧げられた大刹である。



護國寺　六九

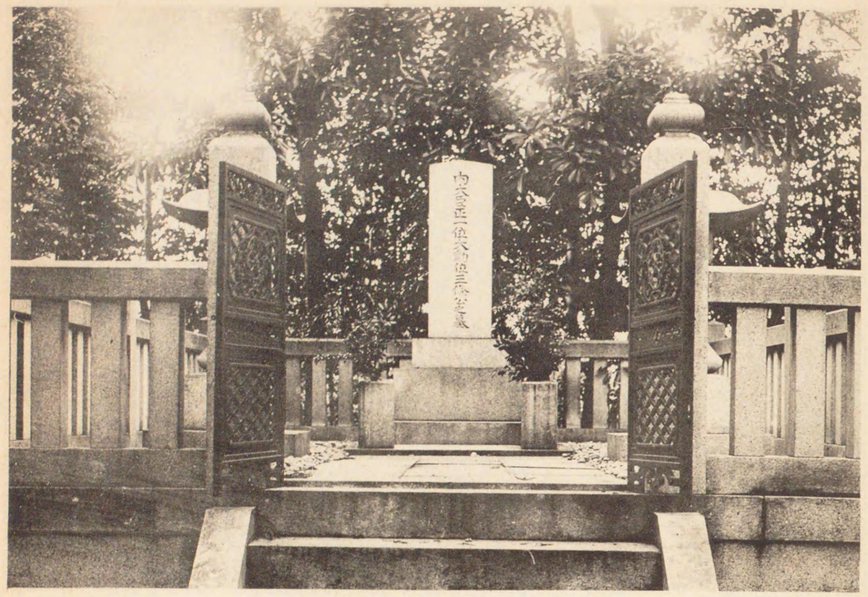
傳通院　七〇

## 七一　三條實美墓（小石川區音羽護國寺内）

實美は梨堂と號し、明治維新の元勳である。文久三年朝議攘夷を見合はすに及び、東久世通禧等七卿と長州に奔り、轉じて太宰府に蟄居された。慶應三年召されて議定となり、明治三年太政大臣に、同十八年内大臣に任じ其間に大勳位公爵を授けられた。同二十四年二月十八日病革まるや正一位に進みしが同日遂に薨ず、時に歳五十五である。國葬と爲して廢朝三日に及び、尋で其靈を父實萬を祀れる別格官幣社梨木神社に合祀された。

## 七二　大塚先儒墓所（小石川區大塚坂下町）

始め幕府の馬を棄てし場所なれば御厩島または馬棄場と云ひしを、室鳩巣、柴野栗山、岡田寒泉、尾藤二洲、古賀精里等の學者相尋で儒式を以て此に葬らるゝに至り、俗稱して儒者棄場と呼んだのである。大正五年有志者其保存を計りて修理を加え、更に木下順菴の墓を府下池上より此に移し、市の所屬と爲して管理することゝ爲り同十年史蹟として指定された。



一七　三條實美墓

二七　大塚先儒墓所

### 七三　尾藤二洲墓

二洲名は孝肇、字は志尹、良助と通稱した。昌平黌の教授と爲り文化十年十二月四日六十九歳で歿した。

### 七四　古賀精里墓

精里名は樸、字は淳風、彌助と通稱した。儒を以て佐賀藩に仕へたが、寛政中昌平黌の教授と爲り、栗山、二洲と併稱して寛政の三助先生と云はれた。文化十四年五月四日六十八歳で歿した。

### 七五　柴野栗山墓

栗山名は邦彦、字は玄輔、彦助と通稱した。幕府に召されて昌平黌の教授と爲り、學政の改革に盡し、文化四年十二月朔日七十三歳で歿した。

七三　尾藤二洲墓

七四　古賀精里墓

七五　柴野栗山墓

## 六六 室鳩巣墓

鳩巣名は直清、字は師禮滄浪また駿臺と號し、新助と通稱した。儒を以て加賀藩に仕へしが、後ち將軍吉宗の侍講と爲り、享保十九年八月十二日七十七歲で歿し、最初に此に葬られたのである。

## 六七 岡田寒泉墓

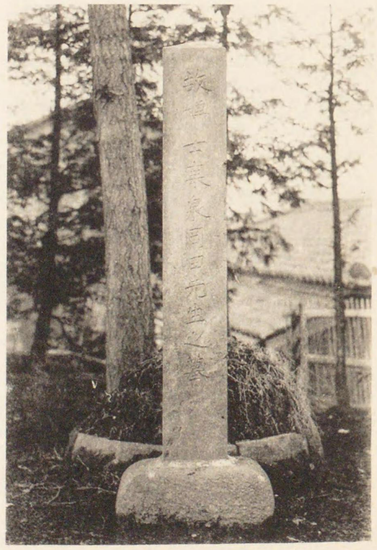
寒泉名は恕、字は子强、清助と通稱した。江戸の人で昌平黌の教授と爲り文化十三年八月九日七十一歲で歿した。

## 六八 木下順庵墓

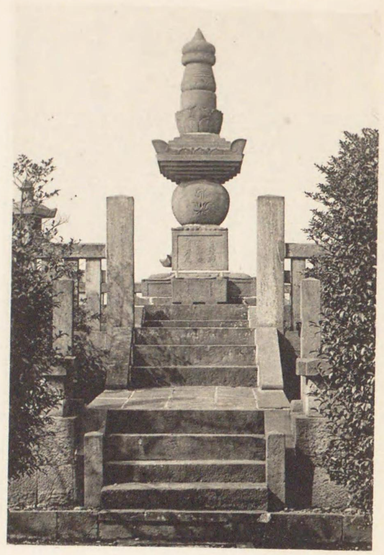
順菴名は貞幹、字は眞夫平之允と通稱した。始め加賀藩に仕へたが、天和二年幕府の儒官と爲り、其門下甚だ俊才に富み、新井白石、室鳩巣、雨森芳洲、祇園南海等を出した元祿十一年十二月二十三日七十八歲で歿し、滝上本門寺内の久壽院に葬りしを近年此に移したのである。

室鳩巣墓　六七

木下順庵墓　六八



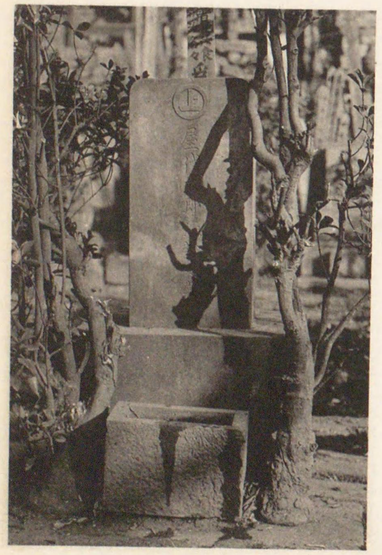
岡田寒泉墓　六七



七九　水野氏墓

八〇　瀧澤馬琴墓

八一　太田南畝墓



八二　屋代弘賢墓

## 七九　水野氏の墓

水野氏は三河刈谷城主水野忠政の女で、德川家康の母である。慶長七年八月廿九日京都二條城で歿せしが、遺言に依り此に葬り、法號を傳通院容譽光岳智光と云つたから、寺號の壽經寺を改めて傳通院と稱するに至つた

## 八〇　瀧澤馬琴墓（小石川區著荷谷町深光寺内）

馬琴名は解、通稱は瑣吉、江戸深川の產である。山東京傳に學びて戲作者となり、別に一機軸を開いて里見八犬傳等の大著がある。嘉永元年十一月六日、八十二歲で歿した。

## 八一　太田南畝墓（小石川區原町本念寺内）

南畝名は覃、通稱は七左衞門、四方赤良、蜀山人などの號がある。幕臣にして狂歌を能くし骨稽該諧を以て世に稱せられた。其學該博にして著書が甚だ多い。文政六年四月六日七十五歲で歿した。

## 八二　屋代弘賢墓（小石川區白山前町妙清寺内）

弘賢號は輪池、通稱は太郎、幕臣である。國學者にして藏書に富み、古今要覽稿の著があり、また書を能くして幕府の祐筆に擧げられた。天保十二年五月十八日八十四歲で歿した。

## 八三　切支丹屋敷阯（小石川區小日向第六天町切支丹坂下）

寛永中幕府が切支丹の徒を拘禁せし場所で、新井白石の西洋紀聞は此處に收容せる伴天連より海外の事情を聞きて著はしたものである。寛政四年屋敷は撤廢されて空地となり、維新後は宅地と爲りて其阯を失ふに至つた。

## 八四　光圓寺の公孫樹（小石川區久堅町）

光圓寺は中臺山と云ひ、もと眞言宗であつたが淨土宗に轉じた古刹である。寺内に幹の廻り二丈七尺高さ九丈四尺に達する公孫樹の老木がある。大正六年の暴風に西南に當れる巨幹を折損したのは惜しいことである。

樹孫公の寺圓光　四八

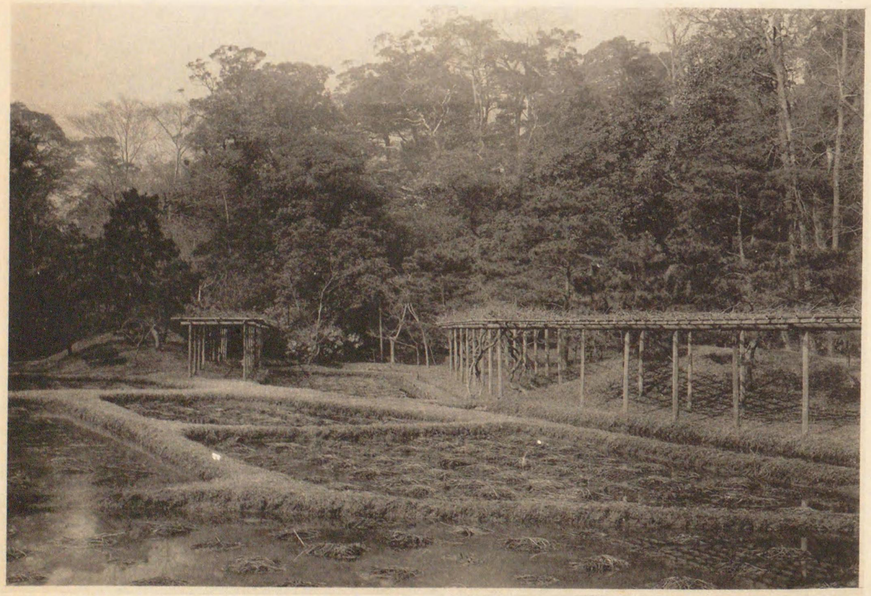
阯敷屋丹支切　三八

## 八五 後樂園（小石川區砲兵工廠內）

舊水戸藩邸の庭園である。寛永中藩主德川頼房幕府に請ふて此地に中屋敷を營むに當り、始めて築造せしものである。自然の地形を利用して、苑池を穿ち、奇石を配置し、神田上水を引いて泉水となし、當時既に名園と稱せられたが、其子光圀朱舜水に命して唐風の景致を加えて大成した。維新後陸軍省の所轄に屬し、砲兵工廠を置かれしが、其庭園は多く舊態を保ちて保存されて居る。

園内の水田は光圀が農民の疾苦の狀を示して米穀の、粒々辛苦になる事を知らしむる爲に作られしものだと云ふ。今は菖蒲澤となつて居る。

八五　後樂園（其一）



同　上（其二）

八六　根津神社

八七　湯嶋神社

## 八六　根津神社（本郷區根津須賀町）

もと千駄木の林町にあつて松平綱重の別邸内に屬せしが、其子家宣將軍の儲嗣となるに及び、產土神である故を以て、寶永三年今の地に移して社殿を造營し、社領五百石を寄附した。明治元年准勅祭の神社に定められ、同五年鄉社に列せられ。後ち府社に昇格せられた。社殿は權現造の華麗な建築で神寶の太刀二口は國寶に指定され居り、また境内に將軍家宣の胞衣塚がある。

## 八七　湯島神社（本鄉區湯島公園内）

府社で、俗に湯島天神と呼ばれる。文明十年太田道灌が勸請した舊社で堯惠の紀行にも見えて居る。地勢高敞にして上野の臺地と相對し頗る眺望が佳い。慶長元和の頃には殊に參詣多かりしもの〻如く、林羅山は湯島十景の勝を選んでゐる。

八八　麟　祥　院

八九　靈　雲　寺

## 八八　麟　祥　院（本郷區龍岡町）

天澤山と云ひ臨濟宗妙心寺派に屬し、江戸の臨濟四箇寺の隨一に推された寺である。寛永中春日局が幕府に請ふて創建せしもので、初は報恩山天澤寺と云ひしが局の法號を麟祥院と稱するので寺號を改めたのである。

## 八九　靈　雲　寺（本郷區湯島新花町）

寶林山佛日院と云ひ眞言宗高野派の別格本山である。元祿四年將軍綱吉が創立した寺で、開山は眞言律の中興淨嚴である。寺寶甚だ多いが中で諸尊集會圖吉野曼荼羅圖、十六羅漢圖の三點は國寶に指定されて居る。

## 九〇 吉祥寺（本郷區駒込吉祥寺町）

諏訪山と云ひ曹洞禪の大刹である。開山は青巖周陽で、太田道灌の創建に係ると傳えらる。始は和田倉門内にあつたが、德川氏入國後天正十九年に神田に移され、更に明暦の大火に遭ふて今の地に轉じたのである。維新前には五十石の寺領を有し學寮が設けられてあつた。

## 九一 湯島聖堂（本郷區湯島二丁目）

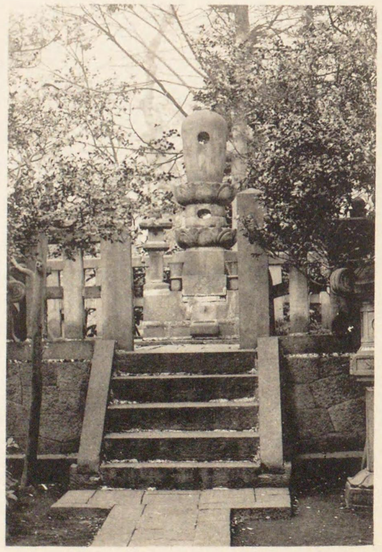
幕府の昌平黌に附屬せし孔子廟である。寛永九年尾州藩主德川義直が上野忍ケ岡に孔子廟を建てゝ先聖殿と稱せしに起源し、元祿中將軍綱吉大に規模を擴張して今の地に移し、大成殿と稱したのである。其後屢々火災に罹り、寛政十一年將軍家齊の改築したものが現在の建物で、支那の手法を加えた特異の樣式より成つて居る。今は東京博物館の一部と爲り大正十一年史蹟として指定せられた。

九〇　吉祥寺

九一　湯島聖堂

九二　向ヶ岡の碑

九四　高島秋帆墓



九三　春日局墓

**九二　向ヶ岡碑**（本郷區彌生町淺野侯邸内）

水戸の藩主烈公德川齊昭の長歌を刻んだ碑である。歌は文政十一年に詠まれたもので、向ヶ岡の古事を述べて其の物の佳なるを説かれて居る。全體が萬乘假名で書かれ、碑として建てられたは後年のことである。

**九三　春日局墓**（本郷區龍岡町麟祥院内）

春日局名は福、齋藤利之の女である。三代將軍家光の生れるゝや其乳母として仕へたが、大奥の信任を受け勢威甚だ強く、屢々政治の機密にも關かつたのである。寛永二十年九月十四日六十五歳で歿した。

**九四　高島秋帆墓**（本郷區駒込東片町大圓寺内）

秋帆名は茂敦字は舜臣、通稱を四郎太夫と云ひ、長崎の人である。西洋砲術を攻究して其秘奥を極め、近世砲術の祖と稱せられ、江川太郎左衞門等は其門人である。慶應二年正日十四日六十九歳にて歿し、維新後正四位を贈られた。